

松下幸之助に学ぶ!!

文・全国PHP友の会

会友 梶浦 洋一

『故きを温ねて新しきを知る』
第三回

(徳島PHP友の会顧問)
(H/PHPA&G)
『葉根譚の会』世話人

黒田日銀総裁は「デフレ脱却のためには何でもやる!」とは言っていたが、遂に『ゼロ金利政策』という奇策を5対4の多数決で導入した。安倍総理が推し進めようとしている政治も3年目にはいり、

ぼつぼつ【デフレ脱却の成果】を国民に実感させなければならぬ時期である。

ここに至り日銀におんぶにだっこされたままでは国民も困惑しているのではないか。国民としては、

もうこの辺で政府・与野党ともに知恵を絞り、叡智を集めて、将来に禍根を残さない成長政策の確立を希望しているのであるまいか。

そのような一刻も早く成果を挙げようと、通常国会の衆議院予算委員会で与野党の論戦が白熱化しだしてきたと思ったら、

幕間のコント?よろしく【自民党の育休希望議員】が無様な存在を示した。あ

ろうことか、出産直前の同僚議員である妻に見せられない《破廉恥行為》を『週刊誌』に指摘されて、遂には国会の舞台から【自作自演】で消えて行くという前代未聞の寸劇を見

せた。情けない話ではある。政府・与党は、国民・有権者から逃げず、詫びるだけでなく、何をどのようにするのか、国民によく判るように丁寧具体的な政策を示してもらいたい。

このたび議員を辞めた人だけでなく、特に最近では新米大臣のみならずベテラン議員までもが、軽率発言で政治家の品位品格を低下させていることには許し難いものがある。大政党の驕りからか!?

近づく各種選挙で、各政党・党派共、有権者が吟味選択し易いように、具体的な政策提示・比較評価を充実促進してもらいたい。

(今月は前置きが少々長くなってしまった・・・)

真の繁栄・平和・幸福を究めるために①

先月、『待てば海路の日和』と記したが、松翁が終生求め続けた【人間のあり方】と【真の繁栄・平和・幸福への道】につ

いては、その発起から70年を経た今日、ようやく真の後継者が出現し始めたようである。

それは昨2015年(平成27年)3月19日、佐藤悌二郎氏と青木仁志氏の共著(対談)で発行された【松下幸之助に学ぶ

希望の哲学】の出現と、先月触れたPHP研究所編・著のPHP友の会テキスト「【PHPの「基本の見方・考え方」】出現である。

追々、詳述していくが、【松下幸之助に学ぶ 希望の哲学】の両著者が互いに相手の業績や研究・行動・実践について称賛し合っている様子は非常に微笑ましく快い極みである。

それではこれから、松翁が残し、後継者へ託した人間研究と人間道追究の『道』を辿っていこう。

まず、【松下幸之助に学ぶ希望の哲学】の道に入ってみよう。まず人口の『書籍の帯』に記されている案内には、

* どうすれば豊かな人生



を送れるのか

* どうすれば社会は平和になるのか

* どうすれば幸せになれるのか

* 松下幸之助の出した答えとは？

* 往くべき道に大いなる希望を照らす

* 時代を超えて不変の成功原則

とあり、裏表紙側の帯には

* 松下幸之助が伝えたかった繁栄・平和・幸福の真髓

について、ハワイで行な

った三日間の対談の紹介がある。

【二日目】繁栄の哲学

◎ どうすれば幸せに生きられるのか

◎ どうすれば平和に生きていけるのか

◎ どうすれば社会はよい方向に向かっているのか

◎ どうすれば繁栄の道を歩めるのか

◎ 成功と失敗をわけるとーニングポイント

【二日目】指導者の哲学

◎ 企業家として成功する

条件

◎ 人間力を高める生き方

◎ リーダーの条件とは

◎ どうすれば世のため人のためになるリーダーになれるのか

◎ 人をつくり、国を発展させるために実行すべきことは

【三日目】生き方の哲学

◎ 生成発展の原理とは

◎ 無形の資産

◎ 思いの強さ

◎ 人間をどうとらえるか

◎ 人をひき寄せる力

◎ 肯定する力

◎ 運について

◎ 叱る

◎ 利他の心

◎ 悪をどう考えるか

◎ 物心ともに豊かな人生を送るには

と書いてある。そして、『はじめに』に青木仁志氏が

一代で世界の松下電器【現

パナソニック】を築き上

げた松下幸之助氏。今も

日本を代表する経営者の

筆頭に名前があげられま

すが、私も一人の経営者

として幸之助さんを心か

ら尊敬しています。

なぜ私が幸之助さんに

ひかれるのかといいますと、

私も幸之助さん同様、貧

しい家庭で育った生い立

ちがあるからです。幸之

助さんは卓越した経営者

であるだけでなく、人間

に内在する偉大な可能性

を信じ、素直な心を忘れず、

常に世のため、人のため

に對して何がよいことな

のか、正しいことなのか

を追求して生きられました。

そして、この社会に大き

な富を遺されました。

幸之助さんの財産は物

質的なものだけではありません。

生き方や考え方

そのものが、現代におい

ても変わらぬ成功の原理

原則なのです。その哲学

は目には見えない無形の

資産として、私たちに未

来の希望を照らし、今も

色褪せぬ輝きを放ってい

ます。

私は北海道の貧しい家

庭で育ちました。パン屋

でもらったパンの耳で空

腹をしのぎ、小学生の頃

から新聞配達をして家計

を支えました。一七歳に

なったある夜、私はこの

生活に耐えきれず、家を

飛び出してたった一人東

京に出てきました。安い

寝台車のベッドの上で、

不安で胸がはりさけそう

になりながら、ガタンゴ

トンという列車の音を聞

いていたあの夜のことは

一生忘れることができま

せん。

頼る人もいない東京で、

私は溶接見習い工になり

ました。その後も喫茶店

のウェイター、バーテン

ダーなど職を転々とし、

泥のような絶望感の中

でもがきながらも「いい暮

らしをしたい」「美味しい

ものを腹いっぱい食べたい」

とそれだけを願って、死

に物ぐるいで働きました。

やがて私は営業の世界

に活路を見いだします。

たまたま入社したブリタ

ニカでフルコミッション

の営業マンとして働くう

ちに、売上を上げる達成感、

人から認められるうれしさ、

チームを率いる喜びを味

わったのです。

売上を上げたい一心で

私は手当たり次第、本を

読みあさりしました。そ

中の一冊に松下幸之助さ

んの本があったのです。

私と同じように貧しい生

い立ちから、日本一とい

われる財を築いた立身出

世の人物がいたという事

実は私を勇気づけました。

いつしか松下幸之助さん

は私の憧れ、尊敬の人に

なりました。

ブリタニカでトップセ

ールスになったあと、私

は人財開発の会社へッ

ドハンティングされました。

この会社で人を教育する

ことこそが自分の天分だ

と確信した私は、三二歳

で自分の会社を立ち上げ

ます。人材教育コンサル

ティングの会社「アチー

ブメント」の創業です。

(つづく)